

## 5 学生の受け入れ

### 進捗状況報告

<p>【5.0.1 入学者受け入れ方針等（門戸開放）】 神学部コース制における卒業生を輩出する2008年度に、前期課程にもコース制を導入する（キリスト教神学・伝道者コース、キリスト教思想・文化コース）。 主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ基礎科目群（学部科目と合併）を開設することにより標準的に2年で修了することのできるカリキュラムを整える（2008年度施行）。</p>
<p>【5.0.2 学生募集方法、入学者選抜方法】 入学者選抜における面接方法の厳格化については、事前に行う面接ポイントの精査をさらに徹底することとした。また、複数の面接委員が個々の判定要素についてそれぞれに評価を記入、その上で協議を重ね、最終的に総合評価を行うような手続きとした。 2年次編入制度については、いまだ検討の段階にない。 社会人学生における外国語学力認定方法を一本化し、すべての社会人学生が、「外国語専門書講読」の単位修得をもって外国語学力の認定に代えることとなった。</p>
<p>【5.0.3 入学者選抜の仕組み（学内推薦制度）】 学内推薦制度について、神学部卒業生の「内部推薦制度」を新設し、2008年度より施行する。</p>
<p>【5.0.4 入学者選抜方法の検証】 学部・研究科合同での入試検討委員会が機能しているが、学部・研究科それぞれ固有の課題だけでなく、学部課程から研究科課程への継続的な課題も存在するため（内部推薦など）、委員会の役割や取り扱い事項をまず精査することが必要である。</p>
<p>【5.0.6 「飛び入学」】 学部課程から神学研究科前期課程への飛び入学制度の可能性を検討したが、現段階では、実現までに多くの課題があるとの結論に至っている。</p>
<p>【5.0.8 社会人学生の受け入れ】 主として社会人学生や他領域からの進学者を念頭に、神学の基礎を学ぶ基礎科目群（学部科目と合併）を開設することにより標準的に2年で修了することのできるカリキュラムを整え、在籍期間の安定化（短縮化）を図る（2008年度施行）。 また大学院科目等履修生が履修期間終了後に大学院へ進学し、単位認定を受けるケースも出ており（2007年度1名）、大学院受け入れにおける一形態として注目し、今後の方向性を検討している。</p>
<p>【5.0.9 科目等履修生、聴講生等】 生涯学習への関心の高さから、神学研究科においても多くの聴講生が授業を履修し、科目等履修生も少なからず存在している。特に科目等履修生においては、その後の大学院進学を促すために、ある目的を明確化した学習過程（ディプロマ・コース）を定めて企画することを検討し始めている。</p>
<p>【5.0.10 外国人留学生の受け入れ】 従来の前期課程に加え、後期課程において2008年度より外国人留学生入試を新たに設置する。また大学の制度を活用した受託研究員を外国の研究機関より受け入れることで、将来的に大学院への進学を志すケースもある。今後このような施策をより推進していくことで外国人留学生の受け入れ拡大を目指していく。 大学院進学への広報については、大学間あるいは学部間学術交流協定大学などを中心に今後の施策を検討する必要があるが、具体的な計画立案には至っていない。</p>
<p>【5.0.11 定員管理】 課程博士の輩出を視野に入れた研究指導体制の整備につき、現在、後期課程入学から課程博士取得までの具体的なプロセスを、研究科委員会にて検討中である。</p>

### 学内第三者評価の評価結果を受けての追加記述

<p>博士課程後期課程へ進学し、研究者となる人材の養成は大学院にとっては当然の目標と考えている。特に学部キリスト教思想・文化コースからの入学者（2008年度より受け入れ開始）の場合、研究者を志望する者が増えることも予想される。 ただ、研究志望者と伝道志望者の前期課程修了までの道程につき、整理をしておく必要があることは理解している。</p> <p>また伝道者志望者について、夏季実習を含む正課教育はもちろん、日本基督教団の伝道者を志望する者においては正課外で教団教師試験準備コースを開催するなどしている。また、2006年度より現役の伝道者にも協力を願い、進路ガイダンス「牧会編」を開催しており、学生の関心を呼んでいる。</p> <p>伝道者を志望する者のうち、特に社会人学生において修了に3年間を要するケースが多い問題については、2008年度前期課程カリキュラム再編において神学基礎科目群を設置し、2年間で修了できるような仕組みに整えた。</p>
---

## 学内第三者評価

他大学出身者や社会人に門戸を開くことは、閉鎖性を打破するために必要な措置であると評価できる。伝道者という高度専門職業人の養成と、研究者の育成という2つの視点があり、修士課程に3年在籍が多いことや、社会人学生の外国語能力不足などの問題が起こっており、分析と対応が望まれる。

なお、特別委員からは以下の意見があった。

- ・社会人学生の受け入れ、科目等履修生、聴講生の増加などに可能性を有するとみられ、積極的な対応が期待される。